

2. 廿日市市宮島町大砂利海岸の調査速報（調査日：平成21年10月17日（土））

2.1 調査の概要

調査の場所



宮島町
大砂利海岸

大砂利海岸



調査範囲

調査の時間

平成21年10月17日（大潮）の干潮時（13:30～16:30）に実施した。
当日の干潮は、潮位が92cm（14時42分）（潮汐表：厳島）

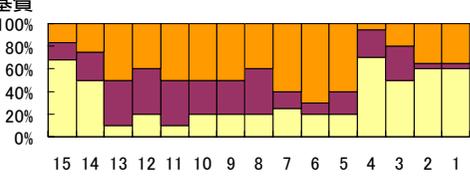
参加メンバー

宮島パークボランティア（6名）
広島県（2名）、調査委託会社・日本ミクニヤ株式会社（4名）



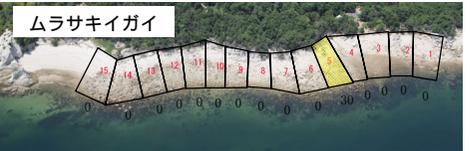
調査前のミーティング

基質



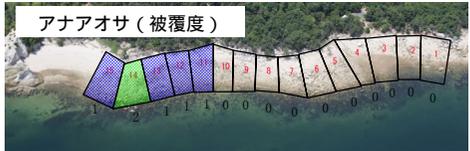
凡例
見られない：「-」海岸線20mあたり0個体
非常に少ない：「rr」海岸線20mあたり1個体
または被覆度1%未満
少ない：「r」海岸線20mあたり2個体以上20個体以下
または被覆度1%以上5%以下
ふつう：「+」海岸線20mあたり21個体以上200個体以下、
または被覆度6%以上30%以下
多い：「++」海岸線20mあたり201個体以上2000個体以下、
または被覆度31%以上50%以下
非常に多い：「+++」海岸線20mあたり2001個体以上、
または被覆度51%以上
※色枠下の数値は、確認された個体数もしくは被覆度を示す。

ムラサキガイ



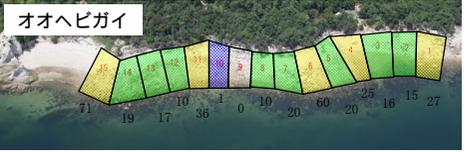
・ムラサキガイは、区域5のみで確認された。ワイヤーロープ上で確認された。

アナアオサ（被覆度）



・比較的よごれた海域で見られるアナアオサは、半数の区域で確認されなかった。区域11-15では、少ない～非常に少ない、で確認された。

オオヘビガイ



・比較的きれいな海域で見られるオオヘビガイは、潮位が高かったものの、少ない～ふつうで、確認された。

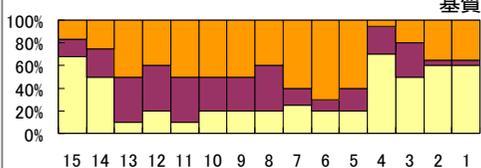
ヒジキ（被覆度）



・比較的きれいな海域で見られるヒジキは、潮位が高かったものの、全区域で確認された。

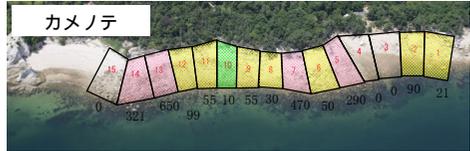
2.2 調査結果について

沿岸域環境モニタリング方法



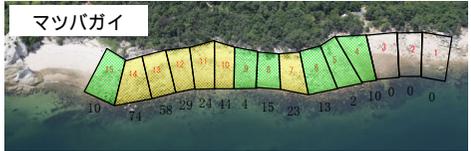
凡例
見られない：「-」海岸線20mあたり0個体
非常に少ない：「rr」海岸線20mあたり1個体
または被覆度1%未満
少ない：「r」海岸線20mあたり2個体以上20個体以下
または被覆度1%以上5%以下
ふつう：「+」海岸線20mあたり21個体以上200個体以下、
または被覆度6%以上30%以下
多い：「++」海岸線20mあたり201個体以上2000個体以下、
または被覆度31%以上50%以下
非常に多い：「+++」海岸線20mあたり2001個体以上、
または被覆度51%以上
※色枠下の数値は、確認された個体数もしくは被覆度を示す。

カメノテ



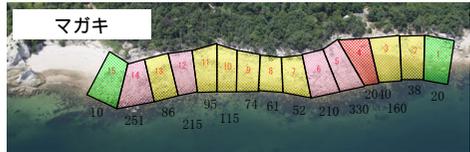
・きれいな海域で見られるカメノテは少ない～多い、で確認された。

マツバガイ



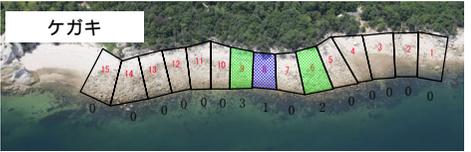
・きれいな海域で見られるマツバガイは、少ない～ふつう、で確認された。

マガキ



・比較的よごれた海域で見られるマガキは非常に少ない～非常に多い、で確認された。

ケガキ

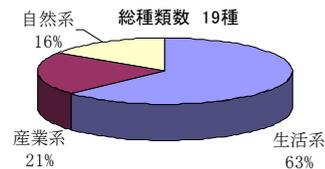
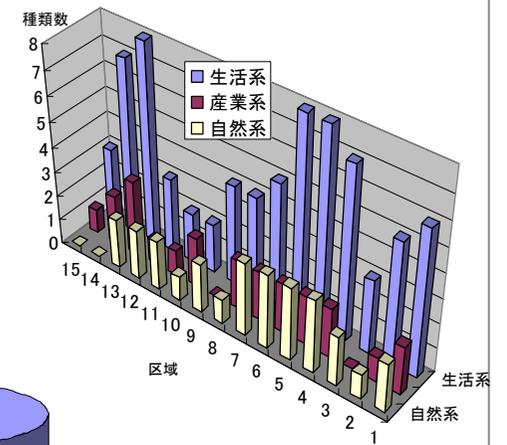


・きれいな海域で見られるケガキは、区域6,8,9で数個体確認された。

きれいな海域で見られる環境指標生物のケガキが初めて確認された。またオオヘビガイ、カメノテ、マツバガイが各区域で確認された。
秋季の潮位は干潮時間であっても高かったため、春季調査結果と比較して出現個体数が少なかった。

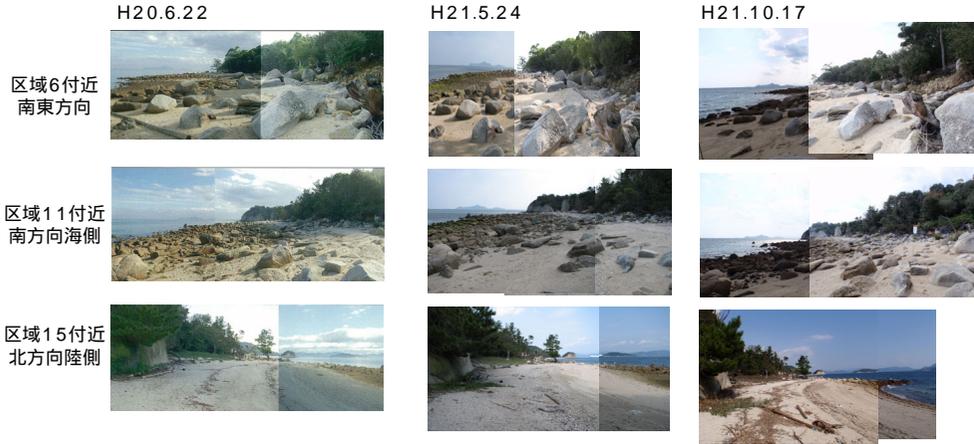
ゴミ・漂着物

- 生活系では陸起源のガラス片、陶磁器、空き缶、ペットボトルが多かった。
- 産業系ではカキ筏に使われるスパーサーなど地域の産業を反映した特徴的なゴミが多かった。
- 自然系ではカキ殻などの海起源の貝殻や陸起源の流木が多く見られた。
- 種数の構成比は陸起源である生活系が6割を占め、次いで地域に特徴的なゴミが多い産業系、自然系が見られた。
- 区域10を除いていずれの区域においても生活系のゴミが最も多かった。



景観・植生

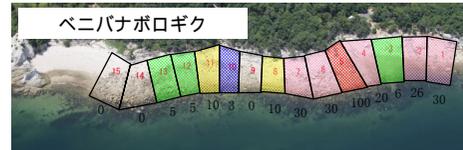
- ・景観・植生では、春季に実施された3地点の定点撮影を行った。
景観・植生ともに、春季との地形変化は見られない。
- ・漂着物では、区域15では秋季の方が若干流れ藻の漂着が多く見られる。



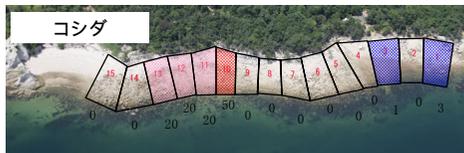
海浜植物



- ・ヒトモトススキは、出現頻度「0」～「2」で確認された。区域11で多く確認された。



- ・ベニバナボロギクは、出現頻度「0」～「5」で確認された。区域5で最も多く確認された。



- ・比較的攪乱された箇所で見られるコシダは、区域10-13の斜面部で多く確認された。



- ・ホソバノハマアカザは、全区域で確認されなかった。



- ・イワタイゲキは、全区域で確認されなかった。



海岸・干潟生物調査マニュアルに基づく水質判定

指標生物名	得点	大砂利
ケガキ	20	
アオガイ	19	
ムラサキインコガイ	18	×
イロロ	17	×
イワヒゲ	16	×
クロフジツボ	15	
カメノテ	14	
イシゲ	13	×
マツバガイ	12	
ウミトラノオ	11	×
ヒジキ	10	
オオヘビガイ	9	
イボニシ	8	
ヒザラガイ	7	
アナアオサ	6	
マガキ	5	
ムラサキイガイ	4	
シロスジフジツボ	3	
ツノマタ(褐色)	2	×
タテジマフジツボ	1	×
の数		13
点数の合計		132
平均点		10.2
評価点(平均点×8)		81

引用：「広島県海岸・干潟生物調査マニュアル〔改訂版〕」、平成20年3月、広島県

調査実施後の感想より

- ・目的を明確に持って実施することが必要であるが、目的が明確ではない。(男性)
- ・マッピング調査では、出現種の変化がわかるようになってきた(継続は力なり)(男性)
- ・調査を継続していくことが重要である。データの蓄積が重要である(男性)
- ・季節変動があることがわかった。新たな関心事項である(男性)
- ・良い環境があることをアピールできないといけない。マスコミ等を利用したことができないか？
良い環境にすることが必要である。(男性)

まとめ

- ・きれいな海域で見られるケガキが初めて確認された。またオオヘビガイが優占し、カメノテ、マツバガイがほぼ全域に確認された。
- ・元宇品では見られた比較的良好な海域で見られるムラサキイガイがほとんど確認されなかった。
- ・ゴミ・漂着物では、生活系の割合が多く、次いで産業系の割合が多い。海岸における人の活動が活発であることによると思われる。
- ・水質判定では、評価点81点であり、評価(きれいな海)であった。
- ・調査実施後の感想では、継続的に調査を実施することが有効であるという意見が多かった。また良い海域環境が身近にあることをアピールすることが必要である、という意見があった。



ケガキ



カメノテ



アオガイ



クロフジツボ